

科目名	基盤看護学特論 I (看護教育学領域)			担当教員：清水 かおり	
科目名(英語)	Advanced Nursing Education I				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	1～2	看研 6 (清水)	月曜日・木曜日 6限

1. 授業の概要：
看護教育の歴史と制度、ならびに看護教育における基礎理論、方法論を修得する。看護基礎教育・卒後教育・継続教育の前提となる看護教育学の理論に加え、関連学問領域の理論・主要概念を学習する。看護職における継続教育の現状と課題、キャリア開発支援について理解を深め、看護職への教育のあり方についてディスカッションやプレゼンテーションを通して探求する。

2. 到達目標：
1) 「看護教育学」の内容を踏まえ、看護学教員、院内教育、認定看護師・専門看護師等の役割を担う看護職者が教育的機能を果たすための基盤となる知識を修得する。
2) 看護教育学の全体構造および看護教育学各論を学習し、看護教員、院内教育、認定看護師・専門看護師等の教育的な役割を担う看護職者が、教育活動を展開するために必要な基本的知識を修得する。
3) 今日の看護教育の現状を分析・考察し、問題点や課題について検討し、課題解決のための方略を探究する。

3. 授業の計画と内容
第 1 回 コースガイダンス
第 2 回 看護教育学創造への道①
第 3 回 看護教育学創造への道②
第 4 回 看護教育制度論①
第 5 回 看護教育制度論②
第 6 回 看護学教育課程論①
第 7 回 看護学教育課程論②
第 8 回 看護学教育組織運営論①
第 9 回 看護学教育組織運営論②
第 10 回 看護学教育授業展開論①
第 11 回 看護学教育授業展開論②
第 12 回 看護学教育評価論①
第 13 回 看護学教育評価論②
第 14 回 看護継続教育論①
第 15 回 看護継続教育論②・まとめ

4. テキスト：杉森みどり・舟島なおみ (2016)「看護教育学」第 6 版 医学書院
グレッグ美鈴、池西悦子編集 (2018)「看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う」改訂第 2 版 南江堂。
参考文献：必要に応じて、文献や国内外の最新の学術論文等の資料を配布する。

5. 準備学習：
授業は、主体的に学習する姿勢・態度が求められる。プレゼンテーションは、事前に課題を探求し、理解した内容を他者に伝わるように工夫して資料を作成し、発表すること。討議では、プレゼンテーションの内容を踏まえ、内容の理解を深めるとともに、建設的な意見を発表し、積極的に討議すること。

6. 成績評価の方法：授業への討議の参加，レポート，試験により総合的に評価する。
・事前の資料準備と授業への参画度 20 点
・プレゼンテーション内容 40 点
・期末テスト 40 点
・合 計 100点満点

7. 履修の条件：看護教育学を履修していること

科目名	基盤看護学特論II (看護教育学領域)			担当教員：清水 かおり	
科目名(英語)	Advanced Nursing Education II				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	1~2	看研 6 (清水)	月曜日・金曜日 6限

1. 授業の概要：
教育学および看護教育学の理論を適用した看護基礎・卒後教育課程、あるいは継続教育プログラムの編成・運用の実際と看護学教育活動の展開を学修する。看護ケアの質を高めるために必要な看護職への教育的働きかけ、教育環境づくりなど、効果的な継続教育を実施していくための知識や理論・技術を学修する。ディスカッションやプレゼンテーションを通して、看護基礎教育において到達すべき看護実践能力、継続教育におけるキャリア開発について探求する。

2. 到達目標：
1) 看護基礎・卒後教育カリキュラム、あるいは看護継続教育プログラム編成の実際を体験し、教育プログラムの展開に必要な基本的知識を修得する。
2) 授業展開のための基礎知識（授業を支える理論、授業展開に必要な基礎知識）を活用して模擬授業を展開し、看護職者の能力向上を目指す教授活動について論述する。
3) 看護基礎・卒後教育カリキュラム、あるいは看護継続教育における教育活動の展開、および教育カリキュラムあるいは教育プログラムの編成・運用の方法を説明する。

3. 授業の計画と内容（受講生の背景に合わせ、以下のA、Bどちらかで進める。）

A. 看護基礎教育カリキュラム編成の実際	B. 看護継続教育プログラム編成の実際
第1~4週：方向付け段階の理解	第1~3週：所属施設の現状を把握に必要なデータを収集・分析し、その結果を成文化する。
第5週：プレゼンテーション1「方向付け段階」	第4週：プレゼンテーション1「現行の院内教育プログラムの分析」
第6~8週：方向付け段階の再検討と形成段階に向けた資料作成	第5~8週：診断が必要な看護職者集団のデータを収集する。
第9~10週：形成段階の理解	第9~10週：教育ニーズの調査結果を基に対象別プログラムの組み合わせや研修内容を決定する。
第11週：プレゼンテーション2「形成段階」	第11週：プレゼンテーション2「再構築した院内教育プログラム」
第12~13週：実施段階の理解（教授、学習および情報資源）	第12~13週：研修計画書を作成し、外発的動機づけとなる要素を加味した運営方法を検討する。
第14週：プレゼンテーション3「模擬授業の展開」	第14週：プレゼンテーション3「模擬研修の展開」
第15週：まとめ	第15週：まとめ

4. テキスト：
1) 舟島なをみ編集 (2016). 「院内教育プログラムの立案・実施・評価—「日本型看護職者キャリア・ディベロップメント支援システム」の活用」医学書院.
2) 舟島なをみ監修 (2016). 「看護学教育における授業展開—質の高い講義・演習・実習の実現に向けて—」, 医学書院.
3) 杉森みど里 (2016). 「看護教育学 第5版増補版」医学書院.

5. 準備学習：毎回、関連文献を精読し、その理解に基づきグループ討議を行う。また、必要に応じて授業外時間を活用し、グループ討議を展開しながら計画的に学習を進める。

6. 成績評価の方法：
・活動状況 70点（評価視点：授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力、プレゼンテーションの適切さ）
・レポートの内容 30点（評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、言語表現の適切さ、文献活用の適切さ）
・合計 100点満点

7. 履修の条件：基盤看護学特論Iを履修済みであること